「いのちとふれあう――生き物と子どもの本」
講演者・中澤晶子

2024 年 1 月 20 日 (土) 14：00
場所　JT 生命誌研究館

子どもたちが大好きな生き物は、子どもの本にとっても大きなテーマです。たとえば、ペットの動物と子どもたち、生業として飼われている動物と子どもたち。身の回りで繰り広げられる、笑いあり涙ありの「生き物と子どもたちの物語」を、絵本や児童書を通してご紹介いたします。子どもも大人も、一緒に楽しむ。本の扉は、新しい世界への扉です。ぜひ、これを機会に、生き物と子どもの物語、お近くの図書館でお気に入りの一冊を見つけてください。

今回ご紹介するのは、子どもの本に多く見られる「擬人化した生き物が主人公」の作品ではなく、あくまで主人公は人間の子どもです。子どもが生き物とかかわることによって遭遇する思いがけないできごと、そこから生まれる喜びと悲しみ、気持ちの変化。心模様、人間模様に彩られた、ゆたかな物語世界をのぞいてみましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今回、取り上げた作品は次の通りです。発行年が古いものでも、図書館には大半が収蔵されています。お近くの図書館で、探してみてください。

・『ドリトル先生物語』全１３冊　（ロフティング作　岩波書店）
・『がんばれヘンリーくん』（クリアリー作　松岡享子訳　学研）
・『ソフィーとカタツムリ』（キング＝スミス作　石随じゅん訳　評論社）
・『まぼろしの小さい犬』（ピアス作　猪熊葉子訳　岩波書店）
・『スーホの白い馬』（大塚勇三再話　赤羽末吉絵　福音館書店）
・『丘はうたう』（ディヤング作　脇明子訳　福音館書店）
・『エレファント・タイム』（中澤晶子作　偕成社）
・『小さい牛追い』（ハムズン作　石井桃子訳　岩波書店）
・『正吉とヤギ』（塩野米松作　福音館書店）
・『ゾウと旅した戦争の冬』（モーバーコ作　杉田七重訳　徳間書店）
・『こぶたものがたり』（中澤晶子作　ささめやゆき絵　岩崎書店）
・『小鹿物語』（ローリングズ作　偕成社）
・『月夜のみみずく』（ヨーレン詩　くどうなおこ訳　ショーエンヘール絵　偕成社）
・『うさぎさんてつだってほしいの』（ゾロトウ文　センダック絵　こだまともこ訳　冨山房）
・『草のふえをならしたら』（林原玉枝文　竹上妙絵　福音館書店）
・『ジョゼフのにわ』（キーピング文・絵　猪熊葉子訳　らくだ出版）
・『なずずこのっぺ？』（エリス文・絵　ビナード訳　フレーベル館）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

中澤晶子（なかざわ・しょうこ）：名古屋市生まれ。子どもの本作家。主な著書に、東京駅を舞台とした『ジグソーステーション』（第２９回野間児童文芸新人賞）、修学旅行で広島を訪れる中学生群像を描いた『ワタシゴト』シリーズ３部作、低学年向けに戦争を語る『ひろしまの満月』（第７０回産経児童出版文化賞）などがある。

＊＊＊

◎はじまりは『ドリトル先生と秘密の湖』。トミー・スタビンズになって、動物語を解し、冒険の旅に出ることを夢想した小学生時代。素晴らしい訳で、未知の世界に誘ってくださった井伏先生、ありがとうございます。⇒『ドリトル先生物語』全１３冊

◎いわゆるペットと子ども。⇒『がんばれヘンリーくん』のヘンリーとアバター。『ソフィーとかたつむり』のソフィーとダンゴムシ・ゲジゲジ・ミミズ・カタツムリ。『まぼろしの小さい犬』のベンと想像の犬チキチト、現実の犬ブラウン。『スーホの白い馬』のモンゴルの少年スーホと白馬。『丘はうたう』のレイと老いた馬のナンジ・リム。『エレファント・タイム』の卓也・ユウスケとゾウのミナミ。

◎生業として飼われている動物と子ども。⇒『小さい牛追い』のランゲリュード四兄妹と牛たち。『豚の死なない日』のロバートと豚のピンキー。

◎災厄（戦争、事故など）の中の動物と子ども。⇒『正吉とヤギ』の正吉とヤギ（沖縄戦）。『ゾウと旅した戦争の冬』のリジーと子ゾウのマレーネ（第二次世界大戦）。
『こぶたものがたり』のターニャとまるまる、なつこともも（チェルノブイリ、福島原発事故）

◎厳しい自然界とそのなかで葛藤する子どもを描く。⇒『子鹿物語』のジョディと鹿のフラッグ。

◎そのほか、お薦めの絵本から。⇒『月夜のみみずく』の父娘とみみずく。『からすたろう』のちびとからす。『やまをとぶ』のぼくとやまのいきものたち。『うさぎさんてつだってほしいの』のおんなのことうさぎ。

◎植物と子ども。⇒『草のふえをならしたら』の８人の子どもたちと８種類の草笛、そして動物たち。『ジョゼフのにわ』のジョゼフと薔薇の花。

◎最後に、とっておきの昆虫語をお聞かせします。⇒『なずずこのっぺ？』の虫たちのおしゃべり

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊